

平成27年度 長岡市三島郡総合的学習教育研究会 活動報告

長岡市立川崎小学校 西澤 真一

1 研修会の開催日時

平成27年11月5日（木）

2 研修会場

長岡市立脇野町小学校（長岡市脇野町1242番地）

3 研修内容

数年来、講演会や地域巡検により教師の視野を広げ、自校の指導計画の見直しを図ってきた。今年度は、これまで蓄積してきた地域理解を基にしながら授業研究会を開催し、会員の実践的な指導力の向上を目指した。

<研修会授業者及び指導者>

授業者	活動名	指導者、講演テーマ
大倉とし子	3 学年 「スマイルみしま観光大使」	横浜市教育委員会 指導主事 永野理英子 様 「自ら学ぶ子どもを育成するための教師の手立て」
水谷徹平	6 学年 「つながって生きる」	富山大学 人間発達科学部 教授 松本 謙一 様 「アクティブラーニングの本質は何か」

4 参加者

16名（会員）

5 成果と課題

「生活科及び総合的な学習」を研究領域とする県小教研指定研究の2年次を迎えた長岡市立脇野町小学校の研究発表会を当部会の授業研究会と位置づけ、研修を行った。3学年では、地域に学び地域を発信する、まさに地域に根差した活動が展開され、子どものふるさとを思う気持ちが原動力となり意欲的な活動が展開された。6学年では、交流のある陸前高田市の人々の願いと、自らの活動を結び付けて考え、願いをかなえるにはどうしたらよいか、今の自分たちができることは何か、現地での活動体験を生かしながら熱心な話し合いが繰り広げられた。

講演会では、永野様から、問題解決的な展開を促すには、教師が、子どもがもつ「問題」（真の問い）は何かを見極め、「問題」を解決するための活動を具体的に想定することが大切であると、自身の実践を基に御講演いただいた。松本様からは、総合学習は、子どもの思いや願いから追究課題を設定し、問題解決を図っていくものである。その過程で主体的、協働的な活動がなされていく。まさにアクティブラーニングそのものであり、だからこそ総合学習の着実な実践が望まれると、御指導いただいた。

これらの御指導を基に会員自身の授業改善に取り組んでいく。特に、活動の振り返りを大切にし、子どもの思いや願いを一層生かしていくことが必要である。また、小学校での開催であったため、中学校会員の参加者が少なかった。実のある研究会であったため残念である。参加への働きかけを十分に行う必要がある。